



中国語母語話者の同時を表す接続助詞の習得について : 「ながら」「つつ」「がてら」を中心に

建石, 始

(Citation)

神戸大学留学生センター紀要, 13:103-115

(Issue Date)

2007-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/00523047>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00523047>



中国語母語話者の同時を表す接続助詞の習得について —「ながら」「つつ」「がてら」を中心に—

建 石 始

キーワード：中国語母語話者、同時を表す接続助詞、KYコーパス、誤用、回避

1. はじめに

本稿では、中国語母語話者の同時を表す接続助詞の習得について分析する。具体的には、KYコーパス（後述）のデータを使用し、中国語母語話者が同時を表す接続助詞をどの程度、また、どのように使用しているのかを分析する。

2. 研究の内容

今回の分析の内容は、「中国語話者のための日本語教育研究会」における接続助詞のプロジェクトに基づいている。そこで、まず、「中国語話者のための日本語教育研究会」の趣旨について簡単に説明しておく。

現在、中国語圏からの留学生は留学生総数の7割以上を占め、今後、さらに増加すると思われ、そのための効果的な日本語教育が求められている。しかし、それに対応する研究の成果は、まだ多くないのが現状である。習得研究の流れに身を置きながらも、常に現場の声に耳を傾け、日中対照研究の成果を生かす。そして、学習者の母語によるプラスの転移とマイナスの転移を体系的にとらえ、中国語話者に対する理想的な日本語教育について考えたい。以上の趣旨から、2005年に設立されたのが「中国語話者のための日本語教育研究会」である。

「中国語話者のための日本語教育研究会」では、接続助詞の習得に関するプロジェクトを進めている。このプロジェクトでは、現在、以下のようなテーマについて研究を進めている。

表1：接続助詞の習得に関するプロジェクト

- | |
|---|
| ① 原因を表す「て」「から」「ので」「ため」 |
| ② 逆接を表す「が」「けれども」「のに」「ても」「くせに」「ものの」「ながら」 |
| ③ 前置きを表す「が」「けれど」 |
| ④ 仮定を表す「と」「たら」「ば」「なら」「ては」 |
| ⑤ 同時を表す「ながら」「つつ」「がてら」 |

- ⑥ 並列を表す「て」「し」「(～も～) ば」
- ⑦ 継起を表す「て」「たら」「てから」「た後 (で)」
- ⑧ 様態を表す「て」「まま」
- ⑨ 目的を表す「ため」「ように」

以上のような背景がある中で、本稿では、接続助詞の習得に関するプロジェクトの一つとして同時を表す「ながら」「つつ」「がてら」を考察の対象とする。KYコーパスを資料として使用し、中国語母語話者の同時を表す接続助詞の習得に関して報告する。

3. 使用する資料と分析方法

本稿ではKYコーパスを使用する。KYコーパスとは、OPI (Oral Proficiency Interview) の内容を文字化し、コーパスとしてまとめたものである。OPIは「外国語学習者の会話のタスク達成能力を、一般的な能力基準を参照しながら対面のインタビュー方式で判定するテスト」(牧野他 (2001: 9)) であり、被験者をリラックスさせるために行われる30秒から1分の「導入部 (Warm Up)」、下限を決める「レベルチェック (Level Checks)」と上限を決める「突き上げ (Probes)」の部分と交互に行う主要部分、全体の4分の3ぐらいのところで行う「ロールプレイ (Role Play)」、最後の「終結部 (Wind Down)」という4つの部分で構成されている。このテストにより、被験者が初級、中級、上級、超級のどのレベルに位置するのかが判断される。OPIの時間は初級が8～12分、中級が12～18分、上級・超級が18～25分とされており、中級では自分、家族、学校、趣味、日常生活、食べ物といったウチ的な話題、上級では職場、学校、余暇活動、社会での出来事、一般的な出来事といったウチとソトの中間の話題、超級では専門的内容、社会・政治問題といったソト的な抽象的話題について会話を行うとされる⁽¹⁾。

KYコーパスには90人分のデータが存在するが、90人の被験者を母語別に見ると、中国語、韓国語、英語がそれぞれ30人ずつとなっている。30人のOPIの判定結果別の内訳は、初級5人、中級10人、上級10人、超級5人となっている。初級と中級にはそれぞれ、下位レベルとして上・中・下が存在し、上級は単なる上級と上級の上という2つに分かれている。

表2：KYコーパス資料における中国語話者30人のレベル

レベル	
初 級	CNL01、CNM01、CNM02、CNH01、CNH02
中 級	CIL01、CIL02、CIL03、CIM01、CIM02、CIM04、CIM05、CIH01、CIH02、CIH03
上 級	CA01、CA02、CA03、CAH01、CAH02、CAH03、CAH04、CAH05、CAH06、CAH07
超 級	CS01、CS02、CS03、CS04、CS05

ローマ字の1文字目の「C」は中国語話者（Chinese）であること、2文字目の「N」「I」「A」「S」はレベル（それぞれNovice、Intermediate、Advanced、Superior）、3文字目の「L」「M」「H」はその中での下位レベル（それぞれLow、Middle、High）を表している。

4. 同時を表す接続助詞

4. 1 庵・高梨・中西・山田（2000・2001）

同時を表す接続助詞にはどのようなものがあるだろうか。庵・高梨・中西・山田（2000・2001）では、本稿で同時を表す接続助詞として取り上げるものが付帯状況を表すものとして位置づけられている。そこでは、付帯状況を表すものとして、「て」「ながら」「たまま」「つつ」「ついでに」「かたわら」「がてら」「かたがた」があげられている。本稿で分析する「ながら」「つつ」「がてら」については、以下のような説明がある。

まず、「ながら」「つつ」に共通する特徴として、ある動作に他の動作が伴うこと（付帯状況）を表し、いずれの表現でも二つの動作の主語は同一であることが指摘されている。

（1）＊太郎がテレビを見ながら、次郎が朝食をとった⁽²⁾。

（1）は主語が異なるため、許容されない。

「ながら」に関しては、付帯状況の一つで、ある主体が動作を行うときに同時に別の動作を行うことを表すとされている。このとき「ながら」の前の動詞は時間的な幅のある動作であることが必要となる。

（2）彼はいつもテレビを見ながらごはんを食べる。

（3）＊ねずみは死にながら足をバタバタさせた。

(3) は時間的な幅のある動作でないため、不適格となる。

また、二つの動作のうち、主な動作は主節であり、従属節は付帯的な動作であるとされている。

(4) 私はテレビを見ながら、アイロンをかけました。

(5) 私はアイロンをかけながら、テレビを見ました。

(4) の場合は主な動作がアイロンをかけることになるのに対して、(5) の場合はテレビを見ることが主な動作となる。

「つつ」に関しては、「ながら」とほぼ同じ意味で使われるが、書きことば的な表現であると指摘されている。

(6) 参列者は故人をしのびつつ手を合わせた。

(7) 二人は酒を酌み交わしつつ思い出話にふけた。

いずれの場合も「ながら」に置き換えることができる。

「がてら」はある動作をする際に、別の動作を同時にするという意味を表すやや古めかしい表現であることが指摘されている。

(8) 大家さんに挨拶をしがてら旅行のお土産を渡しに行った。

(9) 新しい自転車を試しがてら公園をサイクリングした。

「がてら」は「ながら」や「つつ」と異なり、二つの別の動作をするというより、ある動作に別の動作というもう一つの目的・意味合いを持たせるといった意味を表すと述べられている。

4. 2 市川 (1997)

同時を表す接続助詞に関する誤用研究や習得研究は、管見の限り、ほとんど見当たらない。その中で、市川 (1997) にある記述を取り上げる⁽³⁾。

市川 (1997) では、学習者の誤用として、連用中止形で動作の進行を表そうとすることがあることを指摘し、次のような例文を提示している。

(10) テレビを見 (→見ながら)、お飯 (→ご飯) を食べる。

(11) ラジオを耳き (→聞きながら)、勉強することはよさそうではない (→よくないだろう)。

いずれも、二つの動作を同時にするという意味では、連用中止形ではなく、「ながら」が適切となる。

以下では、5 節で同時を表す接続助詞の使用状況进行分析し、同時を表す接続助詞の正用と誤用を観察する。6 節では、同時を表す接続助詞の回避について分析する。

5. 同時を表す接続助詞の使用状況

5. 1 「ながら」「つつ」「がてら」の使用状況

ここで、中国語母語話者による同時を表す接続助詞の使用状況をまとめておく。

「ながら」「つつ」「がてら」という3つの形式のうち、「つつ」と「がてら」は使用されていなかった。これはもちろん、KYコーパスが会話に基づいたものであるため、書き言葉的な要素が強い「つつ」や「がてら」が使用されなかったことによると考えられる。

「ながら」は合計13例使用されていた。その内訳は中級が2例、上級が7例、超級が4例であった。「ながら」は初級段階で導入されることが多い項目であるが、実際に使用されるのは中級以降ということになる。

以上のことを表としてまとめておく⁽⁴⁾。

表3：中国語話者による同時を表す接続助詞の使用状況⁽⁵⁾

	初 級 (5人)	中 級 (10人)	上 級 (10人)	超 級 (5人)
な が ら	×	2人 (2例)	4人 (7例)	3人 (4例)
つ つ	×	×	×	×
が て ら	×	×	×	×

5. 2 中国語母語話者による同時を表す接続助詞の使用例

以下では、同時を表す接続助詞がどのように使用されているのかを、具体例とともに示していく。「ながら」は13例使用されていたと指摘したが、そのほとんどで問題は見られなかった。正しく使用されている「ながら」の例を以下に挙げる⁽⁶⁾。

- (12) あの、朝、だいたい、8時半ぐらい起きて、〈うん、うーん〉んー、あの一、えー歯をみが、うーん、磨いてっから顔はらいて、はらったり、んー、歯をみがったりー、しうーするあと、んー、あの、牛乳とーパンを食べ、て、食べ、食べながら、〈うん〉うー、少しだけ一本をー、読んできます (CIM05)

- (13) T：んー、ほくもちょっと見たことはあるけど、どうやってやるんですか、太極拳は

S：やー音楽をー、流れながらものすごく、遅い、動作で、〈ん〉あのそしてね、んー、あの、人間の、あのなんか、あの一、ブレース、これはね⁽⁷⁾ (CIH03)

- (14) あの一寅さんも、まこういう、人、だと〈うんうん〉思います、はい、自由自在な生活もしながら、他人のために、一生懸命つくすと (CAH01)
- (15) たぶんなにがあるかな、〈うんうん〉とちょっと思いますし、〈うん〉んーまあ、大丈夫でしょう、すぐうん、来るでしょうて、〈うん〉そう思いながら待ちます (CAH02)
- (16) T：中は、何なんですか
S：中はー、だいたい、観光用な、いえば、コーヒー飲みながら、〈ん〉こういう、見る場所あると思う、展望台みたいのーところ今、設置、されて、ます、聞ってますけど、(CAH03)
- (17) T：難しいですね
S：だからこの自由な雰囲気を残しながら、みんな生き生きしてくれるような、〈あー〉管理方法ないんですかねー (CAH05)
- (18) 私、〈んー〉趣味と言えー、コーヒーお茶飲みながら、〈えー〉人と話をする、こと、笑い 〈あーそうですか〉えー (CAH05)
- (19) T：あー 笑い そうですか、あまり遊んだまー、自然と
S：遊んでいたんですけども、〈ん〉仕事を、遊び相手にしていた、親の手伝いをしながら、〈あーなるほどねー〉うん、そういうことで今は、あのとじの子供、を、見ればね、〈ん〉やっぱり自分の時はよかったなと、時々は思ってます (CAH05)
- (20) 電車の中で偶然に、ま一緒ーに席をともしたという、ちょもう少しちょっと大事にして、じゅうぶん生かしてですね、あどこからきだ、何々ですけどもそこはどうですかとですね、こう一話を少しですね、こうしながら、笑いも少し、そういう一具合にーとかですなそれもいい、まーちに、しながら、こう旅をする、とですね、〈ん〉非常にいい旅、少しでも、〈ん〉実りのある旅になるかと思うんです (CS01)

いずれの場合も、生活や趣味など、自分に関することや何かを説明する場合に「ながら」が使用されている。また、「食べる」「流れる(流す)」「(生活を)する」「思う」「飲む」「(雰囲気を)残す」「(手伝いを)する」「する」といったそれほど難しくない動詞が使用されている。

次に、他形式が使用されるべきところに「ながら」が使用されている誤用を取り上げる。このような誤用には2つの種類が考えられる。一つは「ていると」の代わ

りに「ながら」が使用されている場合であり、もう一つは「て」の代わりに「ながら」が使用されている場合である。

まず、(21)は「山に登りながら」よりも「山に登っていると」のほうがよいと考えられる。

(21) T: どういう風に良かったんですか

S: やっぱりー基本は山でしょう、〈ん〉でも山、登り、ながら色々変化、見えてくるよ、〈んー〉ひとつの、ひとつの山、全部違う景色、〈あー〉それで一番よかったじゃないかな、〈あーそうですか〉ん、ん、ん (CAH03)

(21)の場合、後の述語が「見えてくる」となっているため、「登りながら」よりも「登っていると」のほうが自然である。

(22)も同様に、「中国語を教えながら」よりも「中国語を教えていると」のほうがよいと考えられる。

(22) にほんではアルバイトしないとですねえ、〈ええ〉ちょっとあれですからま中国語を教えています、〈あ、あ、そうですか〉はい、〈ふーん〉まあ中国語を教えながら、〈ええ〉はい、自分の、こう、色々ですねえ、にほんじんの、こう、考えとか、〈ええ〉風俗とか習慣とかですね、〈えーえーえー〉色々、ま、あの、勉強になりますから、〈あ、そうですか〉はい (CS02)

(22)の場合、後の述語が「勉強になります」となっているため、「中国語を教えながら」よりも「中国語を教えていると」のほうが自然である。

また、(23)は完全な誤用とは言えないかもしれないが、「たばこを吸いながら」よりも「たばこを吸って」のほうがよいものである。

(23) で一応仕事、に対するもう一つのエネルギーかも〈うん〉しれないですよ、たばこを吸いながら、〈うん〉ちょっとあの、疲れた時は一服とかいいかも知れませんよね (CS03)

(23)の場合、たばこを吸うこと自体が一服となるので、「ながら」よりも「て」のほうが自然であると考えられる。

6. 同時を表す接続助詞の回避

本節では、同時を表す接続助詞の回避について分析する。同時を表す接続助詞の回避とは、本来なら同時を表す接続助詞を使われなければならないところに使われ

ていない場合を指す。回避には2つの種類が考えられる。一つは実際に使われている形式に問題があるため、回避の可能性が高いと見なされる例である。もう一つは実際に使われている形式でも問題はないが、回避の可能性が考えられる例である。これは同時を表す接続助詞を使っていなくても、別の意味として理解でき、同時を表したいのかどうかという判断がつきにくいいため、回避かどうかの見分けが難しいことによる。

(24) 昨日はご飯を食べてテレビを見ました。

(25) 昨日はご飯を食べながらテレビを見ました。

例えば、(24) (25) の場合、「て」も「ながら」も可能であるが、意味が異なる。「て」の場合、ご飯を食べた後でテレビを見るという意味になるのに対して、「ながら」の場合、ご飯を食べることとテレビを見ることが同時に起こるという意味になる。もし (24) が使用されている場合、それが「て」が表す時間的前後関係という意味なのか、それとも、「ながら」を使いたかったのに使えなかったという回避なのかの判断がつきにくい。

6. 1 回避の可能性が高い例

回避の可能性が高い例として次のものが挙げられる。

(26) T：うーん、えー高いですか、あのあまりお金がないんですけど

S：大丈夫よー、んー、はん、うんー、少し食べてー、〈ええ〉話、したいです (CIL03)

(26) では、学生が先生を誘って食事に行くという状況を想定した発話である。ここでは、話をする 것과食べることが同時であることが表されているため、「て」ではなく、「ながら」が使われなければならない。

また、次の例も回避の可能性が高いものである。

(27) うちで、〈ええ〉ちで日本語一、ではなしましょう、〈うん〉わたしーそう言いました、〈うん〉それで、いいですよ、〈うん〉それではなしーす、するうちに、〈うん〉すぐ、あまちがえます、〈んん、うん〉あの助詞の使い方とかー (CAH02)

(27) では「するうちに」ではなく、「しながら」や「していると」が使われるべき状況である。

6. 2 回避の可能性がある例

同時を表す接続助詞の回避の可能性がある例として次のものが挙げられる。

- (28) いつも、いっぱいのご飯つくてー、〈うんうん〉あ、みんな一少しー、〈うん〉お酒飲んでー、〈んーんーんー〉あー、〈んー〉いろいろはなして、〈んーうんうんうん〉んーご飯食べて (CIL03)
- (29) んー、それから、あの一、ピーマンと、なんかにんじんとか切って、〈ええ〉んーいためるときに最初〈えーえーえー〉肉をいためて、〈ええ〉あの一、味を付けて (CIH03)
- (30) 社会主義の、環境で、あの生まれ育って、あの日本へ来て、まだ、いろいろの資本主義の知識とか、あの、社会のあり方、あの、経済の仕組み、それを勉強して、あの、中国と日本の良いこと、組みあわせて、将来あの、良い世界を作りたいと思います (CA02)
- (31) 愛するの心、〈あー、愛する心〉昔よりすくなくるようになってるね、そうすると、毎日動物餌をやって、〈んー〉この、こういう心を育ち、〈あー〉と思います、うーん、アイシンね、育ち (CA03)
- (32) でもその時はね、こ、今まで付き合った日本人が、日本人の全体を代表できるかどうか〈うんうんうんうん〉まだ分からない〈うん〉し、もー日本へ来てから、〈んー〉もー日本という国で〈ええ〉生活して日本人とつき合って、〈ええ〉やっぱりー、感じが違いますよね、〈あー〉んーはい (CAH04)
- (33) 私もあの一主に、〈んー〉あの技術を、〈んー〉使って、たとえばあの一工場に煙突の煙を、〈んーんー〉それを、〈んーんー〉あの一黒い煙だったらね、〈あーはーはーはーはー〉それをあの一あの一なんちゅんですか、〈えーえー〉とにかく悪い人間に悪い成分をおー、あの抑えて、出すようにしなければいいなと思いますよ (CAH06)

(28) ～ (33) はいずれも、「て」が使われているが、「ながら」を使うこともできそうなものである。先にも述べたとおり、同時を表す接続助詞を使っていなくても、別の意味として理解でき、同時を表したいのかどうかという判断がつきにくい。ここでは、回避かどうかの見分けが難しい。ここでは、回避の可能性のあるものとして指摘するだけにとどめておく。

(34) は「ながら」の代わりに「ますから」が使用された可能性が考えられる。

(34) んー、ちょっとー、おーいえのとらいの、となりのスーパー、〈ええ、

ええ〉行きました、〈ええ〉夜のおかず、買いました、〈ええ〉帰るから作り、〈うん〉あとは一、ご飯、食べる、〈うんうん〉食べますから一ちよとテレビ見て、〈うん〉お風呂はいる一、から、〈ん一〉もう早く一、寝ました (CIL02)

ただし、(34) は「食べながら」ではなく、「食べてから」という可能性もある。その場合、「ますから」は「てから」の回避となる。

(35) の例では、述語に相当する部分が抜けており、そこに「言いながら」が入るものである。

(35) やー、例えば、奥さんは、私はその、その夜、何もしませんでした、〈うーん〉そして、あなたのため、あなたがお金に困りますから、〈うん〉男はいつも、なな、何をし、しましたか、など、わたしが、まだ愛してくれますか、などなど 、〈ん一〉ふたりはよくけんかしています (CIH01)

7. おわりに

本稿では、中国語母語話者による同時を表す接続助詞の習得について分析を行った。中国語母語話者による同時を表す接続助詞の誤用はほとんど見られない。そのことには、二つの可能性が考えられる。一つは母語のプラスの転移が要因として関係しているというものである。

(36) 她躺在床上、一边儿看书一边儿吃香蕉。

(彼女はベッドに横になって本を読みながらバナナを食べている)

(37) 我喜欢喝着咖啡听音乐。

(私はコーヒーを飲みながら音楽を聞くのが好きです)

(36) や (37) のように、中国語にも「ながら」とよく似た形式があることが、同時を表す接続助詞の誤用が少ないことの要因の一つとして考えられる。

もう一つの要因として、同時を表す接続助詞の習得そのものがそれほど難しくないという可能性も考えられる。今後は、どちらの可能性が高いのかを慎重に検討しなければならない。

今回はKYコーパスという限られた資料による調査であったので、今後は調査資料を増やす必要がある。その場合、話し言葉だけではなく、書き言葉も調査する必要がある。また、同時を表す接続助詞が使われやすい状況や文脈、および、同時を表す接続助詞の使用条件を考えなければならない。同時を表す他形式との関係、特

に、「ていると」や「て」との関連も考察する必要がある。

注

- (1) 初級は非常に身近な場面で挨拶を行うレベルと設定されており、話題については述べられていない。
- (2) 例文番号は本稿の通し番号に改変する。以下、同じである。
- (3) 市川 (1997) の他に、庵・高梨・中西・山田 (2001) では、「ながら」が使えない例として以下のものが提示されている。
 - (i) 電車に乗りながら本を読むのは目によくない。
 - (ii) あのベンチに座りながら話しましょう。いずれの場合も「ながら」を「て」に置き換えると自然になることが指摘されている。
- (4) 韓国語母語話者では「ながら」が24例、「つつ」が2例、英語母語話者では「ながら」が7例使用されていた。
- (5) この他に、「まま」が2例 (中級)、「かたわら」が1例 (超級) 使用されていた。
- (6) 以下では、基本的に被験者の発話のうち、該当部分のみを挙げる。ただし、中にはテスター (T) と被験者 (S) の両方の発話を挙げる場合もある。
- (7) ただし、この場合、「流す」という他動詞の代わりに「流れる」という自動詞を使用しているため、自動詞と他動詞に関しては誤用が生じている。

参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 市川和子 (1997) 『日本語誤用例文小事典』凡人社
- 井上幸 (2006) 「様態を表す接続表現「て」「まま」「ながら」の習得について―使用実態報告―」中国語話者のための日本語教育研究会 (第四回研究会) ハンドアウト
- 鎌田修 (2006) 「KYコーパスと日本語教育研究」『日本語教育』130号 pp.42-51 日本語教育学会

- グループ・ジャマシイ (1998)『日本語文型辞典』くろしお出版
- 副島健作 (1998)「シツツアルに関する一考察」『日本語教育』97号 pp.106-117 日本語教育学会
- 高橋純 (1996)「「～つつある」について」『日本語教育』89号 pp.100-110 日本語教育学会
- 張麟声 (2001)『日本語教育のための誤用分析—中国語話者の母語干渉20例—』スリーエーネットワーク
- 張麟声 (2005)「中国語母語話者に見られる接続助詞の誤用の傾向—原因・理由を表す「て」「から」「ので」「ため」を中心に—」中国語話者のための日本語教育研究会(第二回研究会)ハンドアウト
- 野田尚史・迫田久美子・渋谷勝己・小林典子 (2001)『日本語学習者の文法習得』大修館書店
- 牧野成一・鎌田修・山内博之・齋藤眞理子・荻原稚佳子・伊藤とく美・池崎美代子・中島和子 (2001)『ACTFL-OPI入門』アルク
- 和田礼子 (1998)「逆接か同時進行かを決定するナガラ節のアスペクトについて」『日本語教育』97号pp.94-105 日本語教育学会

On the Acquisition of Simultaneous Conjunctive Particles by Native Chinese Speakers

TATEISHI Hajime

The purpose of this paper is to investigate the uses of conjunctive particles, especially “nagara”, “tsutsu”, and “gatera”, by Chinese native speakers from the KY corpus data.

While Chinese native speakers use 13 “nagara”s, they do not use “tsutsu” and “gatera”. Although “nagara” tends to be introduced at the novice level, novice Chinese speakers do not use “nagara”. Intermediate, advanced and superior Chinese speakers use it. Almost all the native Chinese speakers do not make any errors in using “nagara”. When native Chinese speakers use “nagara”, they sometimes use “te”.